



平成30年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年10月31日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社トライアイズ
 コード番号 4840 URL http://www.triis.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 池田 均
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員総務部長 (氏名) 小出 美紀 TEL 03-3221-0211
 四半期報告書提出予定日 平成30年11月14日
 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年12月期第3四半期の連結業績（平成30年1月1日～平成30年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年12月期第3四半期	1,182	△12.7	△19	—	△32	—	△75	—
29年12月期第3四半期	1,354	23.6	△27	—	3	—	119	—

(注) 包括利益 30年12月期第3四半期 △118百万円 (-%) 29年12月期第3四半期 176百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年12月期第3四半期	△9.03	—
29年12月期第3四半期	14.07	13.35

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年12月期第3四半期	7,465	4,927	63.7	569.41
29年12月期	6,041	5,130	82.7	599.04

(参考) 自己資本 30年12月期第3四半期 4,755百万円 29年12月期 4,995百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年12月期	—	0.00	—	15.00	15.00
30年12月期	—	0.00	—		
30年12月期(予想)				12.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年12月期の連結業績予想（平成30年1月1日～平成30年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,550	△12.8	1	—	2	—	△61	—	△61.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名） 除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年12月期3Q	8,900,000株	29年12月期	8,900,000株
② 期末自己株式数	30年12月期3Q	548,713株	29年12月期	560,340株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年12月期3Q	8,349,352株	29年12月期3Q	8,471,713株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府及び日銀の政策を背景に雇用状況及び企業収益に改善が見られ、緩やかな改善基調が継続しているものの、節約志向により個人消費は伸び悩み、厳しい経営環境が継続している状況にあります。

また、米国新政権の政策動向、中国をはじめとする東アジアの経済動向及び北朝鮮情勢などの世界経済の不確実性により、先行き不透明な状況も継続しております。

このような経済環境のなか、トライアイズグループは、景気変動の影響を受けない企業グループとして、小さくとも知性を使って、その世界ではNo. 1となり光る企業グループを目指すという方針のもと、「イノベーションによるコスト優位の確立」を最重要目標とし、売上が減少しても黒字化できる体質づくりを続けており、営業利益、経常利益及び最終利益の黒字化（いずれも連結ベース）を目指しております。

これらの結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は1,182百万円（前年同期比12.7%減）と減少しましたが、販売費及び一般管理費は560百万円（前年同期比12.9%減）と更なる削減を実現しており、営業損失は19百万円（前年同期は27百万円の営業損失）、経常損失は32百万円（前年同期は3百万円の経常利益）、税金等調整前四半期純損失は57百万円（前年同期は242百万円の税金等調整前四半期純利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失は75百万円（前年同期は119百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益）となりました。

当第3四半期連結累計期間におけるセグメント別の業績は以下のとおりです。

(建設コンサルタント事業)

建設コンサルタント事業においては、当期に計上予定であった複数の大型案件の工期が来年度以降に延長となりました。それに対応するため、大型案件の収益認識基準に関して進行基準の適用を検討いたしました。進行基準を適用するための体制の整備が遅れたこと及び監査法人との調整が難航し、当年度の適用が見送られました。また、大型案件に代替する短期案件の売上は、当初の予定どおりのため、建設コンサルタント事業の売上高は、当初の予定を下回ることとなりました。今後は発注比率が高まっている防災・減災対策関連業務やダム、河川構造物、海岸・港湾分野の維持管理を中心とした継続性の高い業務の受注シェア拡大を継続し、収益の改善を図ります。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は703百万円（前年同期比8.6%減）、営業損失は56百万円（前年同期は47百万円の営業損失）となりました。

(ファッションブランド事業)

ファッションブランド事業においては、Eコマースによる消費は拡大しているものの、個人消費の節約志向は依然として強く、引き続き厳しい経営環境となりました。そのような環境の中、当期7月に濱野皮革工藝(株)、東京ブラウス(株)及び(株)セレクトティブの3社は濱野皮革工藝(株)を存続会社とする吸収合併を行いました。これにより、ファッションブランド事業における収益力の強化及び効率的な業務運営を目指してまいります。具体的には、新会社において3社の共通業務の集約を図るとともに、3社が保有するノウハウや販路を共有し、製造から販売までの一貫した効率的なオペレーションの構築・強化を行うことにより、製販一体の事業体制を推進してまいります。

濱野皮革工藝(株)の製品については、軽井沢工場の所在地である長野県御代田町におけるふるさと納税の返戻品として引続き認定されているほか、テレビ大阪系列「和風総本家」において「皇室を支える職人&過酷な現場で働くお父さん」特集でも取り上げられました。これまでの130年余の伝統と技術を継承しながら、ブランド価値を向上させるための施策に取り組んでおります。また、台湾現地法人の拓莉司国際有限公司においては、現地パートナーと新しい商品開発を進めており、国内外を問わず、ライセンス事業の強化による収益の拡大を図ります。当第3四半期においては、百貨店向け売上が当初の想定を下回ったほか、販売先の選定及び見直しを行った結果、一部の販売先の売上が当初の予想を下回る結果となりました。

そのため、当第3四半期連結累計期間の売上高は409百万円（前年同期比23.1%減）、営業利益は0百万円（前年同期比780.5%増）となりました。

(投資事業)

投資事業においては、引き続き米国の子会社TRIIS INTERNATIONAL AMERICA INC.において、住居用物件と工業用物件の賃貸をしております。このほか、商業用物件の取得についても継続して検討しており、当第3四半期会計期間において商業用物件を取得いたしました。

当第3四半期会計期間に取得した商業物件が収益の拡大に寄与したことを受け、当第3四半期連結累計期間の売上高は69百万円（前年同期比34.6%増）、営業利益は25百万円（前年同期比159.5%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,423百万円増加し、7,465百万円となりました。これは主に、「現金及び預金」及び「有価証券」がそれぞれ1,263百万円、134百万円減少した一方で、「建物及び構築物」及び「土地」がそれぞれ1,020百万円、1,962百万円増加したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,626百万円増加し、2,537百万円となりました。これは主に、「前受金」及び「未払法人税等」がそれぞれ28百万円、80百万円減少した一方で、長期借入金が1,850百万円増加したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ203百万円減少し、4,927百万円となりました。これは主に、利益剰余金200百万円の減少、自己株式4百万円の増加、為替換算調整勘定43百万円の減少及び新株予約権36百万円の増加によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点において、平成30年9月18日に公表しました修正後通期連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,393,323	2,130,182
受取手形及び売掛金	138,870	62,362
有価証券	293,456	158,693
商品及び製品	196,046	199,719
仕掛品	180,934	196,598
原材料及び貯蔵品	48,701	39,269
繰延税金資産	51,576	51,310
その他	171,617	145,789
貸倒引当金	△8	△8
流動資産合計	4,474,518	2,983,918
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	664,546	1,685,138
土地	620,202	2,582,618
その他(純額)	12,005	18,116
有形固定資産合計	1,296,753	4,285,873
無形固定資産		
のれん	33,461	8,365
その他	30,660	29,124
無形固定資産合計	64,121	37,489
投資その他の資産		
投資有価証券	0	0
繰延税金資産	57	57
その他	224,178	175,147
貸倒引当金	△17,735	△17,285
投資その他の資産合計	206,499	157,919
固定資産合計	1,567,375	4,481,282
資産合計	6,041,894	7,465,200

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	81,484	46,978
1年内返済予定の長期借入金	6,242	31,854
未払法人税等	89,898	9,293
賞与引当金	—	980
受注損失引当金	18,226	16,182
返品調整引当金	2,871	2,027
前受金	236,629	208,113
その他	179,866	91,451
流動負債合計	615,218	406,881
固定負債		
長期借入金	214,027	2,064,706
資産除去債務	38,070	22,804
その他	43,634	43,435
固定負債合計	295,733	2,130,945
負債合計	910,952	2,537,827
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,000,000	5,000,000
資本剰余金	879,240	878,671
利益剰余金	△728,699	△929,482
自己株式	△197,735	△193,555
株主資本合計	4,952,805	4,755,633
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	42,956	△328
その他の包括利益累計額合計	42,956	△328
新株予約権	135,180	172,068
純資産合計	5,130,942	4,927,373
負債純資産合計	6,041,894	7,465,200

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)
売上高	1,354,112	1,182,209
売上原価	737,516	641,233
売上総利益	616,595	540,975
販売費及び一般管理費	643,856	560,749
営業損失(△)	△27,260	△19,774
営業外収益		
受取利息	16,514	22,451
投資有価証券清算分配金	6,088	7,746
不動産賃貸収入	12,623	—
未払配当金除斥益	—	4,644
その他	10,165	4,806
営業外収益合計	45,391	39,649
営業外費用		
支払利息	5,117	15,372
デリバティブ評価損	1,445	34,762
不動産賃貸原価	5,740	—
支払手数料	642	—
為替差損	23	—
その他	1,345	2,168
営業外費用合計	14,314	52,303
経常利益又は経常損失(△)	3,816	△32,428
特別利益		
新株予約権戻入益	—	847
固定資産売却益	247,875	3,513
特別利益合計	247,875	4,360
特別損失		
固定資産除却損	—	1,216
減損損失	8,855	2,628
本社移転費用	—	15,057
店舗閉鎖損失	—	10,567
その他	56	—
特別損失合計	8,911	29,470
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	242,780	△57,538
法人税等	123,621	17,879
四半期純利益又は四半期純損失(△)	119,158	△75,418
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	119,158	△75,418

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	119,158	△75,418
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	56,905	△43,284
その他の包括利益合計	56,905	△43,284
四半期包括利益	176,063	△118,703
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	176,063	△118,703
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益又は税引前当期純損失に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。但し、見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しております。

(追加情報)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	建設コンサル タント事 業	ファッショ ンブランド 事業	投資事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	770,272	532,281	51,558	1,354,112	—	1,354,112
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	2,201	—	2,201	△2,201	—
計	770,272	534,482	51,558	1,356,314	△2,201	1,354,112
セグメント利益又は損失(△)	△47,510	87	9,854	△37,569	10,308	△27,260

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額10,308千円には、セグメント間取引消去17,805千円、各報告セグメントに配分していない全社収益及び全社費用の純額△7,497千円が含まれております。全社収益は、主に子会社からの経営指導料であり、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第3四半期連結累計期間において減損損失を「建設コンサルタント事業」で2,874千円、「投資事業」で5,981千円計上しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	建設コンサル タント事 業	ファッショ ンブランド 事業	投資事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	703,338	409,460	69,409	1,182,209	—	1,182,209
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	324	—	324	△324	—
計	703,338	409,785	69,409	1,182,533	△324	1,182,209
セグメント利益又は損失(△)	△56,237	769	25,578	△29,890	10,115	△19,774

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額10,115千円には、セグメント間取引消去19,260千円、各報告セグメントに配分していない全社収益及び全社費用の純額△9,144千円が含まれております。全社収益は、主に子会社からの経営指導料であり、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第3四半期連結累計期間において減損損失を「建設コンサルタント事業」で2,628千円計上しております。